

第 2 回総合計画審議会における意見への対応

「中間とりまとめ」に対する 主な意見の内容	対 応	担当部局庁
1 全体に関すること		
<p>雇用は創造と安定が重要。働く意欲を含めた雇用の創造について、施策やプロジェクトでもっと全面に出すべき。</p> <p>若者の雇用が本当に厳しい。財政が厳しい中、県としていかに雇用にメスを入れるのか。</p> <p>県内で雇用を維持し、給与を支払い、消費につなげる循環をどうつくるかが重要。</p>	<p>雇用の問題については、計画策定にあたって前提とすべき時代の潮流として認識し、記載しているところであり、具体的な施策については、政策展開の基本方向の活力あるいばらきづくりの「国内外の競争に打ち勝つ力強い産業づくり」の施策に盛り込んでいるほか、今後 5 年間重点的かつ分野横断的に推進する「生活大県プロジェクト」の 9 番目に「競争力ある産業育成と雇用創出プロジェクト」として盛り込むこととしました。</p>	<p>直轄 商工労働部</p>
<p>県民 1 人ひとりが地域づくりの主役であることをわかってもらい、何をやって欲しいのか、アピールが必要。</p> <p>県民が受け身でなく、自らが変わる意識を醸成する計画づくりが必要。</p> <p>計画の中にもみんなで創っていこうということが十分ちりばめられていることが必要。</p> <p>理念の「みんなで創る」については、自治と分権の仕組みの問題であり、茨城独自のみんなで創るための具体的な提案が欲しい。</p>	<p>「みんなで創る」については、今回、基本理念の冒頭で明確に表示しております。</p> <p>また、「政策展開の基本方向」において「各主体に期待する役割」として県民や企業、団体などに各施策の推進にあたってどのような役割を担ってもらおうか明らかにすることとしております。</p>	<p>企画課 全庁</p>
<p>地方の実態は財政的にもマンパワ一的にも大変厳しい状況。県に市町村の実情をくみ取ってもらうことが実施の効果をさらに深めることになる。</p>	<p>地方分権の進展や市町村との連携については、計画策定にあたって踏まえるべき基本的事項として時代の潮流に記載するとともに、第 3 部「計画の推進のために」において、県と市町村は地域の課題や情報をしっかりと共有し、それぞれの役割分担を踏まえ、相互に連携を図っていくとの姿勢を記載をしております。</p>	<p>総務部</p>
<p>今回の計画で一番重視しなければ</p>	<p>本県の現状と課題、歴史的背景を充分把握</p>	

<p>いけないのは現状把握と現状分析。県の弱みや歴史的課題点、課題をみんなで共有することにより、みんなで創っていこうという主体の動きがでてくるはず。</p>	<p>し共有することは、計画策定にあたって、極めて重要なことと考えております。そのため第1回総合計画審議会においては、茨城県の現状と課題や現行計画の中間評価等により本県に強みや弱みなどについて詳しくご説明させていただいたところです。</p> <p>こうした現状分析等については、この答申案においても、計画策定の趣旨や、第1部第1章の時代の潮流と茨城の特性において整理して記載しております。また、歴史的背景につきまして、今回の答申案に「中間とりまとめ」から、第1部第1章第2項茨城の特性に第4節「これまでの取組」を新たに設けることとし、県のこれまでの取組を追加記載したところであります。</p>	<p>企画課 全庁</p>
<p>医師確保、保育所の待機児童、道路、過疎、コンパクトシティの問題など課題は多いが、財政が厳しい中、重要度を整理すべきではないか。</p>	<p>今回の計画では各分野ごとの施策を「政策展開の基本方向」で体系的に整理し、その上で、生活大県の実現のために、重点的かつ分野横断的に取り組む施策については生活大県プロジェクトとして整理しております。</p>	<p>保健福祉部 土木部 企画部 総務部</p>
<p><b>2 基本計画（「政策展開の基本方向」「地域づくりの基本方向」「生活大県プロジェクト」）に関すること</b></p>		
<p>25年後は想像できないほどの高齢社会が到来する。子どもの対策をもう少し強く打ち出していくべき。</p>	<p>少子化対策は大変重要な課題であり、この素案でも今後5年間重点的かつ分野横断的に推進すべき生活大県プロジェクトの1つとして、3「社会全体で取り組む子育て支援プロジェクト」に、男女の出会いの場づくりや安心して妊娠・出産ができる環境の整備などを位置付け、取り組んでまいりたいと考えております。</p>	<p>保健福祉部</p>
<p>高齢化が進む中、茨城県は高齢者の事故が全国1位であり、公共交通の整備をしっかりと入れてもらいたい。</p>	<p>高齢者の交通事故防止対策や公共交通の整備については、「政策展開の基本方向」の住みよいいばらきづくりの（1）医療・保健・福祉が充実した安心できる社会づくり③高齢者が安心して暮らせる社会づくりや、（4）人にやさしい良好な生活環境づくり③生活交通環境の充実位置付け、それぞれ取り組んでまいります。</p>	<p>県警 保健福祉部 企画部</p>
<p>高齢者が区内を移動できるバスなどの公共交通や観光に関する記載がもっとあってもよい。</p>	<p>公共交通については、「政策展開の基本方向」の住みよいいばらきづくりの（4）人にやさしい良好な生活環境づくり③生活交通環境の充実で、観光については、活力あるいばらきづくりの（4）人・もの・交流が活発に行き交う交流社会づくりや生活大県プロジェクトの11「アジアへ広がる観光・交流推進プロジェクト」に位置付け、それぞれ取り組んで</p>	<p>企画部 商工労働部</p>

	まいります。	
子育て支援では、家庭での子どもの虐待も含め、子育てに関心が持てる地域づくりが重要。	家庭での子どもの虐待については、「政策展開の基本方向」の住みよいいばらきづくり、 （１）医療・保健・福祉が充実した安心できる社会づくり②子ども・子育てを応援する社会づくりで、また、子育てに関心が持てる地域づくりについては、人が輝くいばらきづくりの（２）豊かな人間性をはぐくむ地域づくり①家庭・地域社会の教育力の向上に位置付けて取り組んでまいります。	保健福祉部 教育庁
医師・看護師の確保も地域によって偏りがあるので、考えていただきたい。	医師・看護師を確保して、県民誰もが安心して医療を受けられるようにするために、この素案では「政策展開の基本方向」の住みよいいばらきづくりの（１）医療・保健・福祉が充実した安心できる社会づくり①安心して医療を受けられる体制の整備や、生活大県プロジェクトの１「地域医療充実プロジェクト」に位置付けて取り組んでまいります。	保健福祉部 病院局
保育所の待機児童ゼロ作戦がなぜうまくいかないのか。	今年の４月現在の待機児童数は、全国で26,275人であり、国は、「子ども・子育てビジョン」において、平成26年度までに保育所定員を26万人増やす必要があるとしています。しかし、新待機児童ゼロ作戦においても、現在の待機児童数を超える潜在的需要があると考えられることから、こうした需要も踏まえ、健やか子ども基金を活用して、保育所の緊急前倒し整備を行っております。また、併せて、分園設置や特定保育の推進など地域の実情に応じた県独自のきめ細やかな待機児童対策も並行して実施してまいります。	保健福祉部
国は少子化なのでどんどん子どもを生みましようというけれど、保育所が不足していて育てられず、虐待につながってしまう。	なお、この計画素案では、「政策展開の基本方向」の住みよいいばらきづくり②子ども・子育てを応援する社会づくりや、生活大県プロジェクトの３「社会全体で取り組む子育て支援プロジェクト」に位置付け、重点的に取り組むこととしております。	
待機児童の削減が進まない理由を洗い出して茨城独自でもクリアできるようにすべき。		
農業や林業は多面的な機能があるのでこれを守っていくことが重要。	農業や林業の多面的機能については、計画素案では、「政策展開の基本方向」の住みよいいばらきづくり（３）みんなで取り組む地球にやさしい環境づくりの中の様々な施策の中に位置付けるとともに、森林湖沼環境税を活用した間伐の推進などに取り組んでまいります。また、林業の活性化については、活力あるいばらきづくり（３）日本の食を支える食料供給基地づくり④林業・木材産業の活性化と、住みよいいばらきづくり（３）みんなで取り組む地球にやさしい環境づくり④林業の	農林水産部
林業は経済的に非常に厳しい状況なので、県に助けてもらいたい。		

	再生と健全な森林の育成の2箇所に位置付けております。	
茨城県で作られたものにいかに付加価値をつけられるか、ブランド力が非常に重要。県の広報予算がブランド力につながっているか効果の測定が必要。	<p>ブランド力の向上については、生活大県プロジェクトの12「いばらきイメージアッププロジェクト」に位置付け、全庁的に取り組んでまいります。</p> <p>効果の測定につきましては、本県情報の「県外メディアへの掲載件数」や民間調査会社などによる「全国における本県の評価に関する指標」などを数値目標に設定し進行管理してまいります。</p>	直轄 商工労働部 農林水産部 企画部 全庁
社会起業家は新しい公共の担い手であり、チェンジメーカーとして行政をリードしていってくれる人材と認識すべき。	<p>新しい公共等の考え方の重要性については、第1部の第1章「時代の潮流と茨城の特性」に記載するとともに、具体的な取組としては、活力あるいばらきづくりの(2)国内外の競争に打ち勝つ力強い産業づくり③生活を豊かにする商業・サービス産業の育成、住みよいいばらきづくりの(4)人にやさしい良好な生活環境づくり②地域コミュニティの活性化と多文化共生のまちづくり、人が輝くいばらきづくりの(1)いばらきを担うたくましい人づくり⑤誰もが職業や地域で活かせる能力の向上、さらには生活大県プロジェクトの2「暮らしの安全・安心プロジェクト」に位置付け取り組んでまいります。</p>	商工労働部 生活環境部 全庁
子どものプレゼンテーション力が不足している。受け身の授業でなく、教師との対話の中で相手を説得する力や交渉力を作りあげていくことが必要。	<p>他者と豊かなコミュニケーションを図ることができる力の育成や、自分の将来を自ら設計し、自己選択、自己責任で行動できる力の育成について、人が輝くいばらきづくりの(1)いばらきを担うたくましい人づくり②豊かな心と健やかな体をはぐくみ自立した人を育てる教育の推進において取り組んでまいります。また、子どもが外国語で積極的にコミュニケーションを図ったり、自己主張できるよう人が輝くいばらきづくりの(1)いばらきを担うたくましい人づくり⑥国際社会で活躍する人材の育成において取り組んでまいります。</p>	教育庁
プロジェクトで霞ヶ浦だけでなく、海の問題はどうするのか。プロジェクトから漏れた重要な課題が気にかかる。	<p>生活大県プロジェクトの7「泳げる霞ヶ浦再生プロジェクト」では、象徴的に霞ヶ浦をタイトルに掲げておりますが、河川や海などの水質改善などの取組もこの中に盛り込むことにいたしました。</p> <p>プロジェクトから漏れた課題については、政策展開の基本方向でしっかりと対応して取り組んでまいります。</p>	生活環境部 企画課

